

表1 地質学会における技術者の継続教育単位の目安

2001/6/23作成

地質学会が認定する継続教育の種類と重み付けおよび認定単位の上限 CPDWF: 重み付け, CPDH: 継続教育単位(時間), H: 受講時間数						地質学会の該当する行事		
教育形態の分類	番号	内容	CPDWF	CPDH	CPDH上限	本部	支部	備考
研修会、講習	1	研修会、講習会、研究会、シンポジウム、野外見学会などへの参加	1	H	—	学術大会、シンポジウム、報告会、講習	支部例会、研修会、講習会、研究会、シ	休憩時間は除く
論文等の発表	2	口頭発表(登録学協会主催)		10 / 編	—	学術大会、シンポジウム、報告会、講習会、野外見学会案内など	支部例会、研修会、講習会、研究会、シンポジウム、野外見学会案内など	
	3a	口頭発表(その他の学術団体・研究会など)		5 / 編	—			
	3b	口頭発表、講演等(前記以外)		5 / 編	—			
	4	論文発表(査読つき各学協会誌・国際誌)		40 / 編	—	地質学雑誌, Island Arc, 地質学論集		執筆者数を考慮の上調整
	5	論文発表(一般誌・商業誌への論文、総説、報告等)		5 / ページ	10 / 編	ニュース誌記事・報告、シンポジウム・研究会などの論文・報告集など	支部発行の論文・報告集など	
企業内研修及びOJT	6	研修プログラムに応じて	1	H	20 / 年			
技術指導	7	大学、学協会、民間団体等の開催する研修会、講習会の講師等	3	3 × H	10 / 件			
	8	社内研修会講師等	2	2 × H	5 / 件			
業務経験	9	成果を上げた業務等	適宜判断	—	40 / 2年間			
	9a	社長表彰など成果の認定があった業務						
	9b	特記仕様書で技術士が指定された業務						
	9c	企業が技術士に担当させる必要があると認定した業務						
	9d	企業の総括責任者として、重要な技術内容を含む複数の業務の品質・工程・安全・コスト管理						
	9e	公的な表彰を受けた業務						
	10	特許を取得した技術開発の管理技術者、主任技術者、照査技術者、担当技術者	-	40 / 件	—			
その他	11	公的技術資格の取得	-		20 / 件			
	12	公的機関の議長、委員長等		3 / 出席回数	80 / 2年間	正副会長、執行委員、委員会委員長、委員会事務局等	支部長、支部事務局、委員会委員長、委員会事務局等	
	13	公的機関の委員会委員、座長等		2 / 出席回数	40 / 2年間	評議員、各種委員会委員、ワーキンググループ委員など	各種支部委員会委員、ワーキンググループ委員など	
	14a	自己学習(読書:学術・技術雑誌、専門書籍、倫理・歴史・社会問題なども含む)			40 / 2年間			
	14b	自己学習(放送、視聴覚教材など)		1 / 冊				
	14c	自主的研究	0.5	0.5 × H				
	15a	技術図書執筆(编者・監修)		40 / 冊	80 / 2年間	地質学論集および学会の企画する図書の編集・監修	支部の企画する図書の編集・監修など	
	15b	技術図書執筆(執筆者)		3 / ページ	80 / 2年間			
	16	研究開発・技術業務、国際機関への協力等	上記に照らし適宜判断		80 / 2年間			